

平成28年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業
(Ⅱ 定住外国人の子供の就学促進事業)

事業内容報告書の概要

都道府県・市区町村・協議会名【 豊田市 】
平成28年度に実施した取組の内容及び成果と課題
1. 事業の実施体制 豊田市経営戦略室国際まちづくり推進課 委託 NPO法人トルシーダ (2009年度～2014年度定住外国人の子どもの就学支援事業実施団体) ・コーディネーターの配置（東京外国語大学多文化社会コーディネーター養成講座修了） 連絡調整、就学支援 ・日本語教室の開催（日本語教師有資格者、日本語教室等指導経験者、パイリンガル指導員） 日本語指導、教科指導 ・連絡調整会議への参加 豊田市国際まちづくり推進課、豊田市教育委員会、（公財）豊田市国際交流協会、豊田市立東保見小学校、豊田市立西保見小学校、NPO法人子どもの国、NPO法人保見ヶ丘国際交流センター、NPO法人トルシーダ
2. 具体の取組内容 (1) 複雑な問題を抱える子どものケア 公立小中学校を不登校や退学になった子どもに対し、本人、保護者、学校との面談や連絡調整を行い、勉強を続け、居場所となる環境づくりに努めた。また、様々な事情で来日し、大きな不安を抱える子どもに対し、面談や交流、教室活動を通して心理的なケアを行った。 (2) 社会適応のための初期日本語指導・学習支援 不就学、学齢超過、ブラジル人学校に通う外国人の子どもに対する日本語、教科指導、学習習慣の確保に係る指導のための教室を開設した。コーディネーターと連携し、在籍期間半年から1年を目途に学校への就学を目指した指導を行うとともに、就学につなげるための進路指導や情報提供等もあわせて実施した。 (3) 関係機関との連絡調整 コーディネーターを配置し、子どもが編入する予定、あるいは不登校になっている学校、退学した学校や、行政との連絡調整を行った。
3. 成果と課題 ・不登校になった子どもの受け皿となり、不登校の解消につなげた。広く外国人の子どもや保護者の相談窓口としての機能を充実させ、周知を図っていくことが課題。さらに、不登校や退学のまま社会との接点がなくなっている子へのケアの充実と、それらが可能となる体制づくり（人員配置）が必要。 ・来日直後やブラジル人学校からの進路変更を希望、日本で不就学になっていた子どもが、日本語の初期指導を経て、学習習慣を確保し、就学できたことが成果。 ・日本語がほとんどできない状態で来日した子どもに対し、文字の指導、簡単な意思疎通の会話や先生の指示の理解等の指導を行い、スムーズな学校編入につなげる役割を果たしたことが成果。ことばの習得に加え、出身国や境遇の似た子どもと出会いが日本での生活に自信や覚悟を持つ大きな要因となったことは教室開催の大きな成果。送迎がなくて通えないケースがあったことが課題。 ・体験活動や地域活動への参加、ボランティアの受け入れを通じて、地域の日本人や社会との接点を作り、地域の方の理解を深めるきっかけになったことは地域の国際理解を推進する意味で大きな成果。

- ・学齢期で送迎がなければ通えない状況にある子について、送迎の実施により学習場所の確保ができたことは成果である。本事業では送迎が予算化されておらず、「愛知県外国人児童生徒日本語教育支援補助金事業」を活用した。未だ教室への参加に至っていないケースがあることは昨年からの課題。
- ・保護者との面談や学校、行政との連絡調整により就学や学習の開始に結びつけたことは教室開催の大きな成果。しかし、コーディネーターの配置、運営のための事務人件費が予算化されておらず、授業以外の活動がボランティアで実施されていることは現場の負担が大きく事業の継続性から考えても大きな課題。

4. その他（今後の取組等）

- ・次年度も6歳～18歳程度の外国につながる子どもたちを対象に、日本語指導及び、教科指導、進路指導、交流活動などを行う。
- ・指導者育成のための研修会を定期的実施する。
- ・相談窓口機能の充実のための体制づくりについて考えていく。

※ 枠は適宜広げること。（複数ページになっても差し支えない。）